

婦人少年局月報 Monthly Bulletin

W. M. B., L. M.

労働力調 (1951年8月)

(単位千人)

産業別	総数	男	女			対女子の比率%
			実数	対前月比%	対前年比%	
総数	36,926	22,270	14,656	- 3.9		40
自営業	10,080	7,990	2,090	- 2.4		21
家族従業者	13,020	4,110	8,910	- 6.1		68
雇	13,820	10,170	3,650	+ 0.6		26
農業	490	350	130	+ 18.8		27
林業	220	210	10	0		5
漁業	480	430	50	0		10
建設	1,020	890	120	+ 9.1		12
製造業	4,780	3,240	1,540	+ 3.4		32
卸売、小売、金融、保険、運輸、通信、その他	2,080	1,420	650	- 3.0		31
公務	1,830	1,630	200	+ 11.1		11
その他	1,780	1,030	750	+ 1.3		42
失業者	1,150	950	190	0		17
失業者	350	200	150	0		43

有能な職業人になりましょう

— 婦人の職業意識をたかめる運動 —

この十一月から来年の二月にかけて婦人の職業意識をたかめる運動が全国的に行われます。この運動のねらいとすると、婦人が有能な職業人となるよう婦人自らの自覚を、またその理解をたかめます。

この十一月から来年の二月にかけて婦人の職業意識をたかめる運動が全国的に行われます。この運動のねらいとすると、婦人が有能な職業人となるよう婦人自らの自覚を、またその理解をたかめます。

1. 婦人の職業意識をたかめる運動
2. 婦人の職業意識をたかめる運動
3. 婦人の職業意識をたかめる運動

4. 労働組合、事業場と協力し、婦人に仕事の技術の向上をもちたすために、技術訓練をうけるような講座をもつことを奨励します。

働く婦人と家事労働

家事労働

家庭をもちながら、家庭外の職業についている既婚婦人は、仕事のほかに料理、洗濯、アイロンかけ、縫い物、掃除、子供の世話、買物等の家事に多くの時間を費さねばなりません。その程度は子供の数や年齢、家族の形や大きさ、家庭の財政状況、その国の一般的な生活水準によつて違つていきます。

同じくフランスで一九四七年に人口五千人以上の町について、妻と母親の労働時間を調査したところ、その結果外に働き出している婦人の家事に費す時間は、働き出ない家庭婦人に比べて、ずつと少いことが分りました。しかし、それでも家庭内、家庭内の労働時間を合算すると、子供の数にかかわらず一週八〇時間余り働いていることになりました。これは耐久力の限界に近いものと云われます。

米国の労働省婦人局も一九四四年から四五年にかけて、三千人の婦人労働者について、これらの問題を調査しましたが、これらの婦人労働者の三六パーセントは既婚者、未亡人、離婚者の半

分と未婚者の八分の一を含む、は、買物、食事の用意、洗濯、アイロンかけ、その他の家事の大部分を自分の手で行つていました。家族と家事を分担している婦人は全体の約半数、全然家事を担当していない婦人はわずか九パーセントでした。又オランダのある大工場で行われた調査によれば、工場に働いた既婚婦人の一九パーセントは家事の全部を行い、三三パーセントが夫、娘、もしくは母親に手伝つてもらつていました。幾人かの家族と家事を分担している婦人は四二パーセント、全く家事を担当していない婦人はわずか六パーセントでした。このように家庭を営みながら外に出て働く婦人の数は一般に各国で増加する傾向にあります。そのため近年各国では職場食堂の普及、家庭に持ちかえる食物の販賣、洗濯や修理のサービス、学校や托児所の給食、子供の遊戯場、図書館等婦人労働者の働きやすくなるような施設に社会的関心が高まっています。(海外資料)

中学高校女子卒業者の就職状況

近年新しく学校を卒業する人は、女子でも就職するものが非常に多く、殊に中学校の卒業生は、進学するもの以外殆ど就職しています。

文部省の統計によつて、学校卒業者の卒業後の状況を見ますと、昭和二十六年三月中学校を卒業した女子は、第一回の通り四一・一％が進学し、四五・八％が就職しています。これは男子と比べても著しい差があります。女子の高等学校卒業生は、就職者も進学者も、中学校卒業生よりその割合が少く、そのための無業の割合が多くなっています。

これら女子の学校卒業者の進学者の就職状況を見ますと、中学校で就職者が五〇・四％を占め、次いで製造業が二九・九％、サービス業が五・七％、小売業が五・二％、公務が一・三％の割合で就職しています。又製造業中

では紡績業がその六九％を占めています。高等学校の卒業生については幾分その傾向がかわり、製造業は二〇・九％、製造業は七・三％となっており、公務、サービス業、小売業の割合は、中学校卒業者の場合よりかなり大

きくなっています。

次に労働省職業安定局の調査によつて、今年三月、中学校を卒業した女子の、公共職業安定所を通じて就職した状況を見ますと、第二回の通り求人数は一五万七千、これに対して求職申込件数は一六万六千、就職件数は一萬八千で、求職申込件数の七〇％以上が就職しています。そしてその中六五％までは

就職に就きました。又高等

学校で就職者が五〇・四％を占め、次いで製造業が二九・九％、サービス業が五・七％、小売業が五・二％、公務が一・三％の割合で就職しています。又製造業中



世界人権週間について

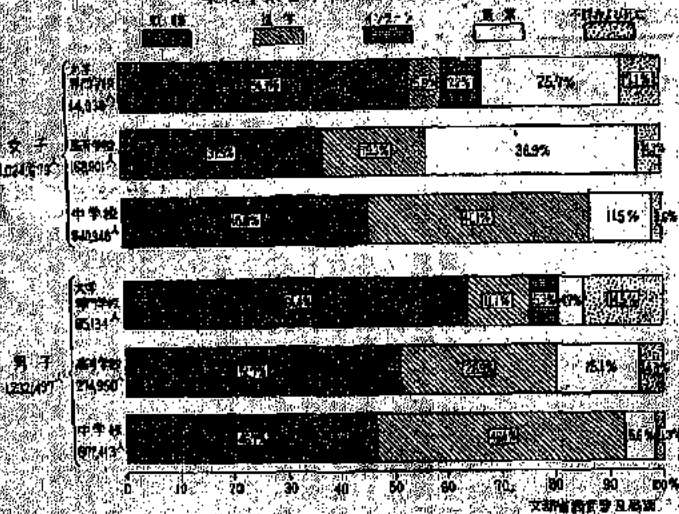
一九四八年十二月十日の国際連合総会で決定され、右記された世界人権宣言に基いて、本年十二月四日から十日までの「世界人権週間」として各種の行事が催されます。

世界人権宣言は、人間の権利と自由とをまもるために、どのような事が必要かをのべていますが、そこには第一、主権は政府ですが、関係有る、ユニオノ関係団体、婦人団体、その他人権問題に関係のある各団体、及び報道機関が協力してそれぞれの立場から全国的な運動を展開する事になつて

います。

この宣言は三〇條からなり、人間の権利と自由とをまもるために、どのような事が必要かをのべていますが、そこには第一、主権は政府ですが、関係有る、ユニオノ関係団体、婦人団体、その他人権問題に関係のある各団体、及び報道機関が協力してそれぞれの立場から全国的な運動を展開する事になつて

学校卒業生の卒業後の状況 (1950年度)



就職希望者の職業指導

記録より

職業指導は過去数年にわたり、労働省職業安定所が行う年少者に対する職業指導が中心となっていました。年少者の職業指導については、当初は就労の機会を創出するに重点が置かれておりましたが、近年は就職希望者の増加に伴い、就職希望者の職業指導が中心となつてきました。

本年度は、就職希望者の増加に伴い、就職希望者の職業指導が中心となつてきました。就職希望者の職業指導は、労働省職業安定所が行う年少者に対する職業指導が中心となっていました。

本年度は、就職希望者の増加に伴い、就職希望者の職業指導が中心となつてきました。就職希望者の職業指導は、労働省職業安定所が行う年少者に対する職業指導が中心となっていました。

(表一) 進路状況 (数字上段は本年度、下段は前年度)

	在籍者数	進学者数	家事家業	就職希望者		進路未定	その他
				安定所経由	縁故経由		
男	6,764	4,058	448	1,706	522	492	30
	6,326	3,520	439	1,186	374	-	215
女	6,394	3,699	653	1,383	574	620	85
	5,505	2,781	507	917	212	-	218
計	13,158	7,757	1,101	3,089	1,096	1,112	115
	11,881	6,401	1,146	2,103	635	-	433

前年との比較的特徴

卒業生は約10%増加、進学者は約10%増加、安定所経由の就職希望者は14%増加

と目的とする活動または行為をなす権利をなんらかの国家、なんらかの団体またはなんらかの個人に対して認めらるものであるといふことに所収されてはならない。

1. どんな仕事をしているか
2. どうしてその職業を選んだか
3. 仕事に適應しているか否か
4. 給料はどれ位か
5. 病災、災害、心配ごとについて
6. 周囲の人との協調について
7. 楽しかったこと、嬉しかったこと
8. 余暇の利用、趣味、娯楽について

神戸公共職業安定所

影響に頼つてきません。輕症ながら約一〇％が病氣にかかり、極度ながら約三％が重傷を蒙つています。心配ごととは約八％で、將來に對する不安とか、仕事を對するものが多くありました。

6. 項目について約一〇％が平和を得ていないのは残念です。「少し減らずに」程度の方に、つては商店の中途にあるの、觀念はないのですが、全然うまいかなといふ理由を追突して行くと殆んどが就職前の自分希望と現在の仕事が合致してない不満から發している点は驚嘆に際して振舞が如何に要であるかを示唆しています。

7. 項目については、悲喜ずれにも上層者に對する感情

敏感に探り上げてゐる名目も
 とにしていることである。
 五五を占めてゐるがこれらのも
 者は当然の結果として身心と
 に發芽感を誘ふのである。また
 女子にとつて家事家業の多いと
 とは一應さもあるべきではあり
 ましうが身心に無理のない範
 圍内に止めたいものです。
 (八) どんな希冀抱負をもつ

一般に中小工場では「雇ひあ
をもつと長く」が多く、安定所
に対しては「工場見学」「仕事
内容の説明」として居る。
が多く、学校に対しては「半
校時代にもつと勉強をして得た
かかった」ということです。抱
負としては将来中堅産業人とし
て立身したいといつています。